

第 32 回 ISO/TC 17 国際会議報告

ISO/TC 17 国際会議は、通常 2 年毎にハイブリッド会議として開催されるが、現在、多くの TC 17 直轄規格の開発が進捗しているため、臨時の Web 会議として第 32 回 ISO/TC 17 国際会議が開催され、それぞれの規格開発案件、ビジネスプラン見直しなどが審議された。次回は、2026 年 10 月にストックホルムでハイブリッド会議として開催される。

(赤字は TC 17 国際会議後の進捗)

1. 開催日：2026 年 5 月 19 日（火）

2. 開催場所：Web 会議

3. 出席者（敬称略）

議長：寺澤〔日本（鉄鋼連盟）〕

幹事：玉田〔日本（鉄鋼連盟）〕

委員：日本〔越川・山本（鉄鋼連盟）、藪田・小北（鉄鋼スラグ協会）、松元（神戸製鋼所）、佐々木（日本製鉄）〕、アルゼンチン、中国（10 名）、フィンランド、フランス、ドイツ（3 名）、イタリア（2 名）、ヨルダン、韓国

SC 幹事：SC 1（化学成分の定量方法）井田〔日本（鉄鋼連盟）〕

SC 4（熱処理鋼、合金鋼）Gunter Briefs（ドイツ）

SC 9（ぶりき及びぶりき原板）田谷〔日本（鉄鋼連盟）〕

SC 10（圧力用鋼）Richard Knoblich（ドイツ、ドイツ委員兼任）

SC 12（連続圧延薄鋼板）田谷〔日本（鉄鋼連盟）、TC 17/SC 9 幹事兼任〕

SC 15（鉄道レール、レール締結装置、車輪及び輪軸）Baoshi Liu（中国）

SC 17（線材及び線製品）Cuying Ren（中国）

SC 21（気候変動に関連する環境）玉田〔日本（鉄鋼連盟）、TC 17 幹事兼任〕

コンビーナ：WG 28〔**ISO 21763**（鉄鋼分野のスマート製造に関するガイドライン）制定〕Jie Hou（中国、中国委員兼任）

WG 29〔**ISO 4885**（鉄鋼製品－熱処理用語）改訂〕Chengming Yan（中国）

WG 30〔**ISO 4948-1**（鋼－分類－第 1 部：鋼の化学構成に基づく合金と非合金との分類）改訂〕Seppo Harkonen（フィンランド）

WG 31〔**ISO/TR 26176**（再生可能な鉄資源）制定〕Jie Hou（中国、中国委員兼任）

関係者：Clare Broadbent（WSA、Head, Sustainable team）

Maho Takahashi（ISO/CS、Technical program manager）

計 9 か国・1 団体、37 名

4. 主な審議結果

4.1 幹事レポート

幹事から活動状況が報告され、内容が承認された。

現在、33 か国の P メンバー、37 か国の O メンバーの参加のもと、ISO/TC 17 直轄規格として、**ISO/FDIS 21763、ISO/FDIS 4885、ISO/DIS 4948-1 及び ISO/WD TR 26176** の 4 つのプロジェクト、並びに **ISO/PWI 25690**（鉄鋼スラグの水膨張試験）の事前検討が進められており、今回の国際会議でそれぞれの案件の状況の確認及び審議を行っていくことが確認された。

昨年度以降、TC 17 からのリエゾン委員会については、活動内容に直接的に関連する SC が責任を持って相手側委員会の動きをフォローして、必要な情報を TC 17 及び各 SC に展開すべく、関連する SC に移管しているが、引き続き、TC 17 がリエゾン関係を維持すべきと判断された委員会について、幹事から、次のとおりにリエゾンオフィサーを任命することが提案され、承認された。

- ISO/TC 5（金属管及び管継手）：Jie Hou（中国委員、ISO/TC 5 議長）
- ISO/TC 146（大気の状態）/SC 1（固定発生源）：玉田 [日本（鉄鋼連盟）、ISO/TC 17/SC 21 幹事]
- ISO/TC 164（金属の機械試験）：齊藤 [日本（鉄鋼連盟）、ISO/TC 164 委員]

4.2 WG 活動及びプロジェクト

4.2.1 WG 28 (ISO/FDIS 21763)

コンビーナから、レポートが報告され、承認された。

幹事から、現在 FDIS 投票中であることが報告され、確認された。

⇒ FDIS が承認され、7/22 制定発行予定。

4.2.2 WG 29 (ISO/FDIS 4884)

コンビーナから、レポートが報告され、承認された。

幹事から、現在 FDIS 投票中であることが報告され、確認された。

⇒ FDIS が承認され、7/24 制定発行予定。

4.2.3 WG 30 (ISO/DIS 4948-1)

幹事から、DIS 投票の結果、DIS が承認されたこと及び 197 件のコメントが提出され、WG 30 でコメント処理案が検討されたことが報告され、確認された。

コンビーナから、コンビーナレポートに基づき、DIS コメントに対する処置案及び修正 DIS を準備して、議長に対して、修正 DIS を FDIS として登録することを提言したことが説明された。

対して、ドイツ委員から、処置案で原案のままとされた一部の反対コメントについて、WG 30 の議論が十分に行われていないことが指摘され、審議の結果、WG 30 で必要な審議を追加して実施することが確認された。

今後の進め方について、幹事から、WG 30 での審議が完了した段階で、WG 30 からの提言に基づき、議長がコンビーナと相談して進め方を判断することが説明され、確認された。

⇒ WG 30 会議（6/9）で全ての意見を審議・処置案を合意（一部の欧州鉄鋼メーカーが懸念のマイクロアロイ鋼は、構造用に適用されることを明記して合意＝Dual phase 鋼・TRIP 鋼などの自動車ハイテンを除外）、TC 17 議長判断で FDIS に進めた。

4.2.4 WG 31 (ISO/WD TR 26176)

コンビーナから、レポートが報告され、承認された。

現在、WG 31 で、TC 17 メンバーへの意見照会結果を踏まえて、WD 作成を行っているが、TC 17

で初めて取り扱う原料スクラップに関する TR の制定であり、各国の関心も高いため、WG 31 からは、CD 段階を追加して、広く TC 17 各国のコメントを募集すべきとの提言を受けている。

審議の結果、提言に基づき、CD 段階を追加することが承認され、幹事から、WG 31 が WD 作成を完了した段階で、CD 意見照会を行うことが説明された。

⇒ WD 検討継続中

注記 ISO/IEC Directives Part 1 の規定では、TR 開発において、CD 段階は、委員会が承認した場合だけ実施するオプションになっており、通常は、WD 段階終了後、DTR 段階（IS 開発の FDIS 段階に相当）を経て発行されることになる。

4.3 ISO/PWI 25690

中国提案によって、2025 年度に NP 投票が実施されたが、賛成参加国不足のためプロジェクトは未承認になり、PWI として登録されている。

提案者から、再度制定の必要性が説明され、SG を設立して、NP 投票を実施する前に、提案内容を事前検討することが提案された。

審議の結果、提案に基づき、SG 4（ISO/PWI 25690 検討）設立及びコンビーナ（中国）任命の承認、並びにエキスパート募集の CIB を実施することが、確認された。

⇒ TC 17 総会後の CIB で SG 4 設置及びコンビーナ（中国）任命を承認。日本（鐵鋼スラグ協会）・中国・イランがエキスパートを派遣。SG 4 での検討・提言を受けて、TC 17 で 2 回目 NP 投票が行われる予定。

4.4 ビジネスプラン（Strategic business plan=SBP）の見直し

SBP については、次回の ISO/IEC Directives Part 1 改訂（2026 年 7 月発行、10 月施行）において、全面的に変更された新書式で見直すことが要求される予定であり、前回の TC 17 国際会議（2024 年 10 月）において、TC 17 の SBP を見直すことが確認されている。

新書式では、ISO ロンドン宣言を受けて、各 TC の SDGs 及び気候変動問題の観点での取組みを記載することが要求されており、幹事が、WSA の意見を踏まえて、見直し案を準備してきた。

幹事から、見直し案が説明され、審議の結果、メンバーの意見照会を行ったうえで、次回の TC 17 国際会議で内容を審議することが確認された。

4.5 次回の国際会議

第 33 回 ISO/TC 17 国際会議は、2026 年 10 月にストックホルムでハイブリッド会議として開催されることが確認されている。

幹事から、具体的な日程（10 月 19 日：WG 会議及び AG 会議、20 日～21 日：TC 17 国際会議）が提案され、確認された。

（文責：玉田）